

3 改善のポイント

POINT 1

- 作業工程を見直し、一定のルールを作り、生徒用の手順書を作成しました。

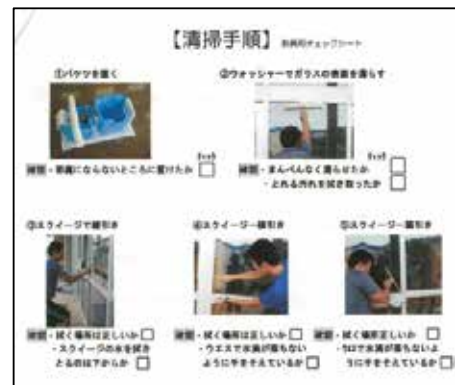


清掃時の姿勢などは、教員が見本となり、ポイントを示しました。常に携帯できる大きさにしたことで、次に何をやるのかが分かるようになり、自分から次の工程に進めるようになりました。

POINT 2

- 教員用手順書（教員用チェックシート）を作成し、生徒への指示を統一しました。

用具の使い方や、清掃の手順についての要点を確認し、生徒が困っているときの支援や、指示の方法を揃えました。

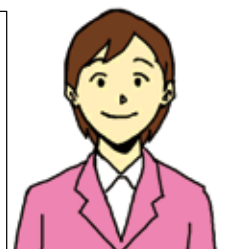


次にやることが分かるので、先生を待っていなくても自分で次の仕事にとりかかることができるようになりました。



4 授業者がわかったこと

- 手順書を作成したことで、自信をもって仕事ができるようになり、生徒の動きがとてもスムーズになりました。
- 一定の時間の仕事に集中して取り組めるようになり、効率よく作業が行えることで、仕事への意欲を高めることができました。



仕事への意欲を高める振り返りの工夫

改善事例8

<クリーンサービス>

1 授業改善の視点

- 身体に負担がかかる不安定な姿勢で作業する場面



- 仕上がりに自信がなく、一人で作業を完遂することが出来ない場面



- 作業中の姿勢や待機中の態度、使用物品の配置など、その都度口頭で指示していますが、作業場所や作業内容を変更すると分かりにくいみたいです。
- 手順に従って工程を終えても、仕上がりが不安なため、側にいる教員に確認を求めることが多く、自信をもって作業に取り組めていないようです。
- 作業学習をとおして、社会に出るために基本的なビジネスマナーを身につけて欲しいです。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 生徒が自分の動きを客観的に判断できるように、動画を活用して振り返りを行いましょう。
- 生徒が社会のルールに沿った仕事の進め方などを意識出来るようにしましょう。
- 作業日誌の項目を検討し、生徒が一人で記入し、振り返りが出来るようにしましょう。
- 仕事への意識を高めるために、ユニフォームを着用しましょう。

※教員の関わり方

- 学校外での学習の機会もありますので、地域に積極的にアピールしましょう。
- 冷たい水や、砂埃、直射日光などから、生徒の身体（手指・呼吸器官・目など）を守れるよう、服装や環境に教員が十分に配慮することも大切です。

3 改善のポイント

POINT 1

- 作業中の生徒の様子を動画で撮影し、身体の動かし方や道具の使い方を生徒自身が確認出来るようにしました。



自分の作業の様子を客観的に捉えることができ、自分で気付けることが増えました。

POINT 2

- 作業日誌は記入する項目を減らし、該当する項目にチェックをすることで活動を振り返ることが出来るようにしました。
- 身だしなみや挨拶、報告の仕方など、基本的なビジネスマナーを意識するようにしました。
- ユニフォームを着用し、仕事への意識を高めるようにしました。



記入する項目が減ったので、短時間で作業を振り返ることが出来るようになりました。



自分が仕事をしている様子を動画で見ると、先生に指摘されていたことがよく分かりました。良い例としてみんなの前で紹介されると、次も頑張ろうという気持ちになります。



【Hさん】

4 授業者がわかったこと

- 動画を利用した振り返りでは、「良い例」をたくさん提示することで、自信につながり、意欲的に作業に取り組めるようになりました。
- 「仕事」の意識が高まることで、言葉の使い方や、作業態度が大きく変化し、協力して作業したり、生徒同士で教え合ったりする場面が見られました。



時間を意識して準備ができる環境の整備

改善事例9

<農園芸>

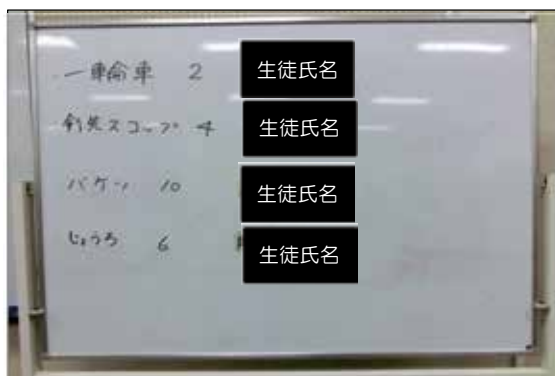
1 授業改善の視点



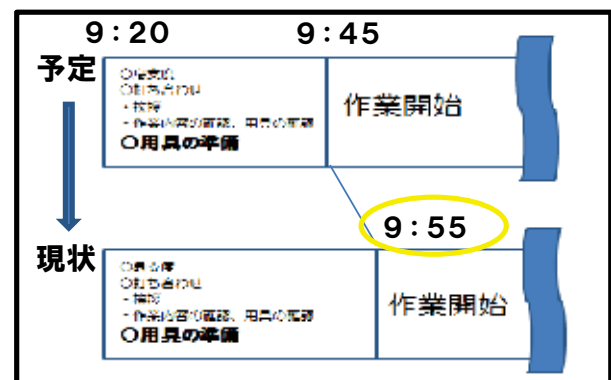
【Iさん】

倉庫に行くとたくさんの用具があり、どれを持っていけば良いのかが分からなくなってしまい時間が掛かってしまいます。

準備の指示をするホワイトボード



実際の時間



- 準備の時は、ホワイトボードにその日の作業で使用する物品名を書いています。農園芸は使用する物品が多いため、その都度口頭で補足しています。
- 予定（計画）していた時間より、準備が終わるまでに大幅に時間が掛かり、実際の作業に取り掛かる時間が遅くなってしまいます。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 準備に時間を取られているので、作業の開始時間を守るように工夫しましょう。
- 生徒が「準備は何時までに終わらせる」ということが分かるように工夫しましょう。
- 物品倉庫を整理する際には、安全面に配慮するとともに、保管されている個々の物品の数の確認などを生徒が行えるようにしましょう。

※教員の関わり方

- 授業に関わる教員は、道具の正しい名称や扱い方を覚えましょう。
- 生徒の中からチームリーダーを指名し、役割を分担することで、生徒同士で確認が出来るようになります。
- 教員も、授業の開始時間などの「時間」に対する意識を高めましょう